

事業の背景・目的



図1. アマクサミツバツツジ

アマクサミツバツツジは天草地方の限られた地域にしか生育していない、我が国の固有種である(図1)。観賞価値も高く地元にもよく知られている植物で、開花期はメディアにもしばしば取り上げられる。その一方、同所的に生育するオンツツジとの雑種移行が深刻となっており、純系を見つけることは困難となっている。本事業ではより多くの純系を見出し、挿し木により多くの純系のクローン苗を得ることを目的としている。

事業の内容

事業① 純系の確認事業

以下のことが純系の判断材料となった。

- ・花が1芽あたり1花付く。
- ・花が薄桃色。雑種はオンツツジの影響を受け、赤および紫がかり比較的鮮やかである。
- ・葉が小さい。雑種はオンツツジの影響を受け大きく、大きさも個体によりばらつきがある。

事業② 挿し木増殖事業

- ・9～10月にかけて、4か所の自生地で挿し穂を採取した。
- ・純系は予備調査および葉の大きさより判断し、採取した。
- ・オキシベロン乳剤に3時間浸漬し、挿し木を行った。
- ・人工気象器および温室内で管理した。

事業③ 鉢上げ、展示啓発事業

- ・令和3年度に挿し木した苗を鉢上げ予定であったが、発根が少なかったため翌年度に行うこととした。
- ・学生向けのセミナー、および各種講演会において本取り組み、およびアマクサミツバツツジの現状について紹介している。

得られた成果



図2. 挿し木の様子

多くの個体は上天草市の一部の山に残っていることが判明した。この生育地は十分な日照が確保されていること、岩場であるため大木が生育しないことが要因であると考えられた。しかしながら、そのほかの生育地においてはこの数年の間でも環境が悪化しており、日照不足で開花が減る個体が増えつつあった。なお、開花期でなくとも葉の大きさからも高い確率で純系を判別できることがわかった。

挿し木については、若い個体もしくは剪定部より萌芽した枝から得た挿し穂は比較的高い活着率を示した(図2)。しかしながら、ある1か所で採取したものについては、全く活着しなかった。理由は不明である。